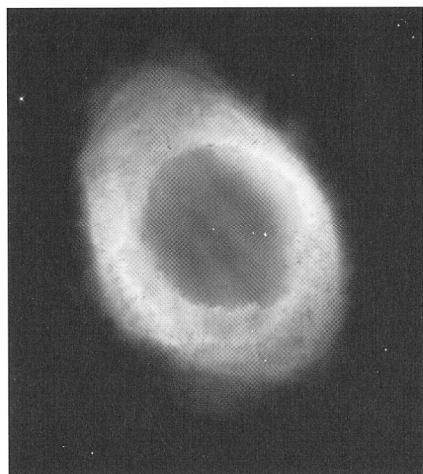


プラネタリウム

惑星状星雲



©The Hubble Heritage Team
(AURA/STScI/NASA)

「惑星状星雲」という天体をご存知でしょうか。天王星の発見者でもあるハーシェルが、望遠鏡で見たときに惑星と同じように見えたことから命名した天体の名称ですが、実際には惑星とは関係ありません。

星はその最後を迎える時、膨張して赤色巨星となり、外層のガスを宇宙空間に放出します。放出されたガスは中心核からの紫外線を受け、さまざまな色の美しい光を放って輝きます。惑星状星雲の正体は星の最後の姿なのです。

惑星状星雲の形は丸いものだけではなく、リボンのように細長く伸びたもの、さらに複雑に入り組んだものまで、さまざまな

形の星雲があります。これは、ガスの噴き出し方に原因があると考えられています。

星の中ではさまざまな元素が作られています。その作られた元素は星の最後にガスとして宇宙空間に放出されます。その元素は新たな星のもととなり、また私たちの体を作っている物質のもとにもなっています。惑星状星雲からは、こうした私たちの体を作る元素も見つかっています。

今回のプラネタリウムでは、さまざまな美しい惑星状星雲の姿をご覧いただくとともに、そこに秘められた謎に迫っていきます。

企画・制作：江越航(科学館学芸員)

サイエンスショー

見える・見えないのふしぎ

科学館の入口の上に「偏光ステンドグラス」という大きな展示があるのをご存知でしょうか？そのまま見ても透明でちょっとスモークがかかった板がぶら下がっているだけなのですが、偏光板というものをとおして見ると、色鮮やかな星座の絵が見えるようになります。

